

平成 25 年 11 月 7 日

報道機関 各位

マレーシア工業開発銀行（MIDF）との業務提携について

フィデアホールディングス株式会社（本社：仙台市、社長兼CEO：里村 正治）は、マレーシアのマレーシア工業開発銀行 MIDF（正式名称：Malaysian Industrial Development Finance Berhad、略称：MIDF、本社：マレーシア クアラルンプール、グループ・マネージング・ディレクター：YBhg. Datuk Mohd. Najib Hj. Abdullah）との間で、業務協力協定に関する覚書に調印いたしましたのでお知らせいたします。同行と業務協力協定を結ぶ日本で最初の金融機関となります。

MIDF は、マレーシア国際通商産業省（MITI）傘下の政策金融機関として、投資銀行業務や中小企業向け中長期金融を中心とした開発金融業務（通常の金融業務に加えて、イスラム法準拠の金融業務を含む）、アセットマネジメント業務の三分野で業務を行っております。

今回の業務協力協定により、今後マレーシア若しくは世界のイスラム市場進出を検討している地元企業・事業主の皆さまに、荘内銀行及び北都銀行などフィデアグループを介して、きめ細かい金融情報やサービスを提供することが可能となりました。また、東北地方との経済取引、投資機会を検討する同国企業に対しては、MIDF を介してフィデアグループが全面的にサポートさせていただきます。

具体的には、進出企業に対する融資・金融サービスの紹介、同国及びイスラム市場（金融）に関する情報交換やノウハウ提供、ビジネスマッチング、セミナー開催や視察団の派遣などを実施していく予定です。

特にイスラム教の戒律に則り、処理・製造された製品、サービスであることについての認証制度である「ハラール」は、国内中堅・中小企業にとっては未開拓の有望マーケットであり、ハラール・リサーチ・カウンシルによれば約 18 億人、200 兆円規模のイスラム消費市場参入の必須条件であります。

現在、マレーシアは、「グローバル・ハラール・ハブ」としてイスラム巨大市場へのゲートウェイとなろうと熱心に取組んでいます。同国は、食品だけでも 60 兆円の市場規模と言われるイスラム経済圏への効果的プラットフォームとアクセス、及び企業の新たなビジネス機会を提供します。

フィデアグループは、これまで、タイ、ベトナムをはじめアジア各国の金融機関等との提携を積極的に推進しておりますが、この度の提携を契機に、地元企業のイスラム（ハラール）市場参入への支援強化や ASEAN、特にマレーシア、インドネシア等イスラム圏からの外国人観光客誘致（受入環境整備）等、お客さまへの金融情報サービスを更に充実させ、地域の産業、経済振興に対する取り組みを強化してまいります。

以上